

2014年9月4日 掲載 カーゴニュース

千葉支店を四街道市に移転・新設

第一貨物

荷捌きスペース大幅拡大し、集配業務の効率化図る



武藤社長挨拶する

第一貨物(武藤幸規社長)

は、千葉市若葉区
の千葉支店を、東関東自動車道の千葉北IC近くの四街道

市大日に移転・新設し、8月28日に竣工披露した。千葉支店は1968年11月に千葉市今井町に開設、71年3月に現在の千葉市若葉区若松町に移転して43年が経過し、老朽化が進み狭隘化もあり、今回の移転となった。9月1日から稼働に入った。

新千葉支店の敷地面積は、旧施設の約5・8倍の3万8000・97平方メートルで、延床面積は旧施設の約3・7倍の6582・6平方メートルと大幅に拡大した。建物は鉄骨造2階建てで、1階は事務所とプラットフォーム、2階は会議室や仮眠室となる。プラットフォームは東西113メートル、幅は31メートル。南北に幹線輸送用の大型車パースと集配用の小型車パースを配し、大型車用パースは30台が同時に接車でき、8メートルの庇をそなえる。小型車パースは風雨や騒音を考慮してインドアで、約2150平方メートルの広さを持つ。床荷重は1平方メートルあたり1ト。プラットフォームと事務所の照明には4万時間の長寿命LED照明を採用し、大幅な省エネを実現した。セキュリティにはデジタル監視カメラ39台を設置。敷地内には、6200立方メートルの調整池や30キロリットルの自家給油スタンド、40トンの防火水槽を備える。また災害時には、近隣の避難場所として機能する。配置車両は2ト車13台、4ト車35台、7ト車1台、

大型車19台、トラクタ3台、トレーラ3台。

同社は、圏央道沿いに大宮、入間、厚木、厚木第二と事業所を展開しており、この新千葉支店の開業により、首都圏を囲むネットワークが完成する。また従来、東京支店扱いの船橋、木更津、富津、館山、勝浦などの房総半島西側エリアを新千葉支店扱いに変更した。

竣工披露の挨拶に立った武藤社長は、「千葉の旧施設は大変狭く、老朽化しており、お客様にはご不便をおかけしていた。この新施設は当社には大きいかなという感じはあるが、これからの千葉の発展を十分に計算してこのような施設にした。圏央道がほぼ完成し首都圏のサービステ体制はほぼ完璧だと自負している。東北と名古屋、大阪を結ぶこのループ状の道路を十分に活用して、画期的、斬新な輸送サービスができる。ドライバー不足、軽油高騰などアゲインストな風が吹いているが、いつ、いかなる場合でも継続して、都市間の荷物を運ぶことをお誓い申し上げる」と述べた。また来賓として、四街道市の佐渡斉市長と日本食研の越智保夫専務執行役員、日本ペイント・千葉工場の中村治彦工場長が挨拶し祝宴に入った。



も継続して、都市間の荷物を運ぶことをお誓い申し上げる」と述べた。また来賓として、四街道市の佐渡斉市長と日本食研の越智保夫専務執行役員、日本ペイント・千葉工場の中村治彦工場長が挨拶し祝宴に入った。